

松阪市

障がい福祉に関するアンケート調査
結果報告書
(一般市民対象)

令和2年3月

松 阪 市

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
3	回答者の属性	2
(1)	年齢	2
(2)	性別	2
(3)	居住地域	2
II	調査結果	3
1	障がいのある人に対する理解について	3
(1)	障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか	3
(2)	日常生活で差別や偏見を感じることはあるか	5
(3)	差別や偏見を感じる場面	7
(4)	障害者差別解消法の認知度	9
(5)	障がいのある人などに対する理解を深めるために必要なこと	11
2	障がいのある人の地域生活について	13
(1)	障がいのある人などが抱える問題についての関心	13
(2)	関心を持つようになった理由	15
3	障がいのある人などにやさしいまちづくりについて	17
(1)	バリアフリーが進んでいないと感じることはあるか	17
(2)	バリアフリーが進んでいないと感じるところ	19
(3)	障がいのある人などが地域の活動に参加しやすくするために必要なこと	21
4	災害対策について	23
(1)	災害に備えて市が力を入れるべき取り組み	23
5	ボランティア活動などについて	25
(1)	ボランティア活動の経験があるか	25
(2)	障がいのある人などに対してできる支援	27
6	市の取り組みについて	29
(1)	市が取り組むべき施策	29

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、新たな「松阪市障がい者計画・障がい（児）福祉計画」の策定にあたって、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施した。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	20 歳以上の一般市民
配布数	1,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和 2 年 2 月
調査地域	松阪市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	1,000
有効回収数	446
有効回収率	44.6

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

①比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出している。

従って、合計が 100％を上下する場合もある。

②基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率は n を 100％として算出している。

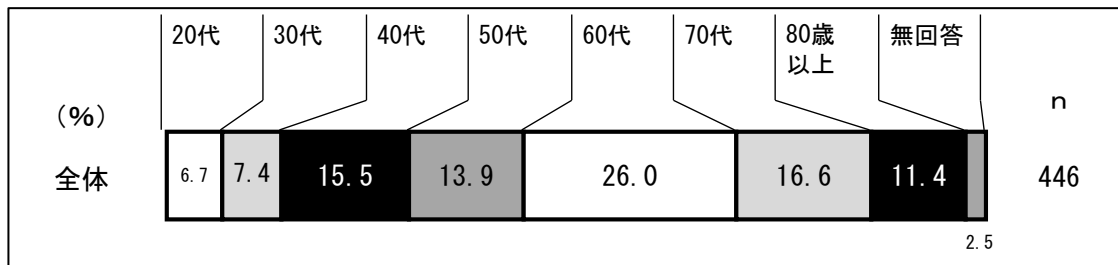
③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出しても良い問であり、従って各回答の合計比率は 100％を超える場合がある。

3 回答者の属性

(1) 年齢

年齢は、「60代」(26.0%)、「70代」(16.6%)、「40代」(15.5%)、「50代」(13.9%)、「80歳以上」(11.4%)、「30代」(7.4%)、「20代」(6.7%) となっている。

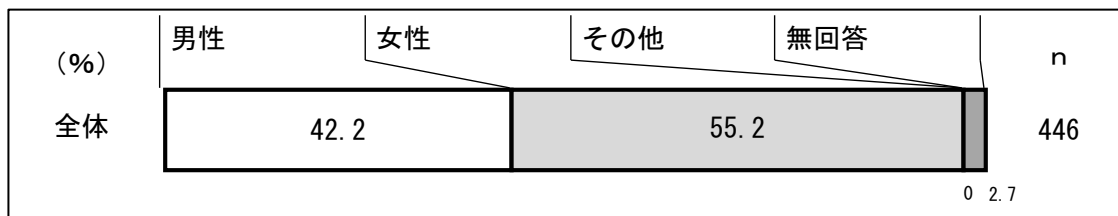
図表 年齢



(2) 性別

性別は、「女性」(55.2%)、「男性」(42.2%) となっている。

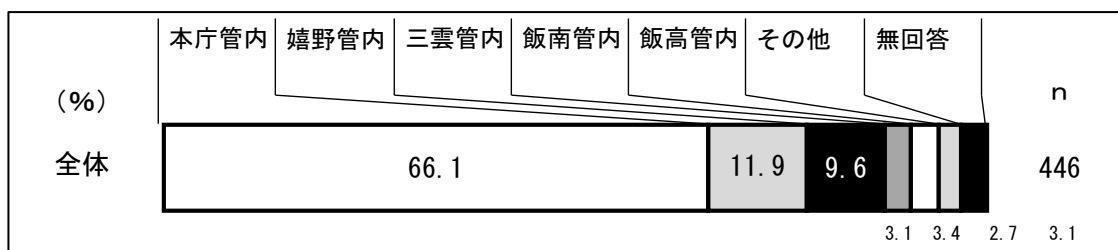
図表 性別



(3) 居住地域

居住地域は、「本庁管内」(66.1%)、「嬉野管内」(11.9%)、「三雲管内」(9.6%)、「飯高管内」(3.4%)、「飯南管内」(3.1%) となっている。

図表 居住地域



Ⅱ 調査結果

1 障がいのある人に対する理解について

(1) 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか

問4 障がいのある人などに対し、人々の理解が進んでいると思いますか。(1つに○)

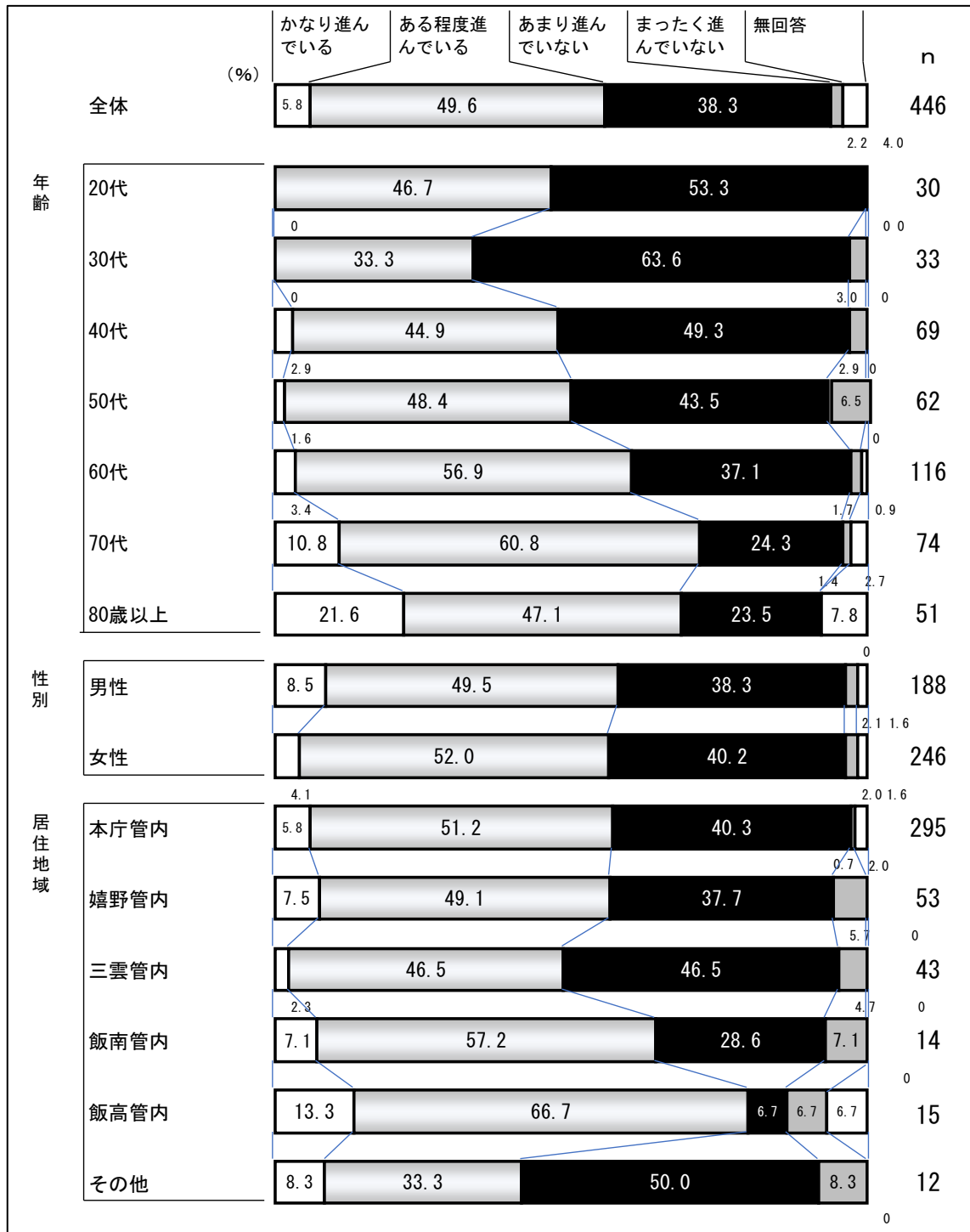


- “進んでいる”が6割弱、“進んでいない”が4割強を占める。

障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うかたずねたところ、「かなり進んでいる」(5.8%)と「ある程度進んでいる」(49.6%)を合わせた“進んでいる”が55.4%、「あまり進んでいない」(38.3%)と「まったく進んでいない」(2.2%)を合わせた“進んでいない”が40.5%となっている。

年齢でみると、30代では“進んでいない”が66.6%を占めているのに対し、70代では“進んでいる”が71.6%となっている。

図表 障がいのある人に対する人々の理解は進んでいると思うか



(2) 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか

問5 日頃の生活の中で、障がいのある人などに対する差別や偏見などを感じることはありますか。(1つに○)

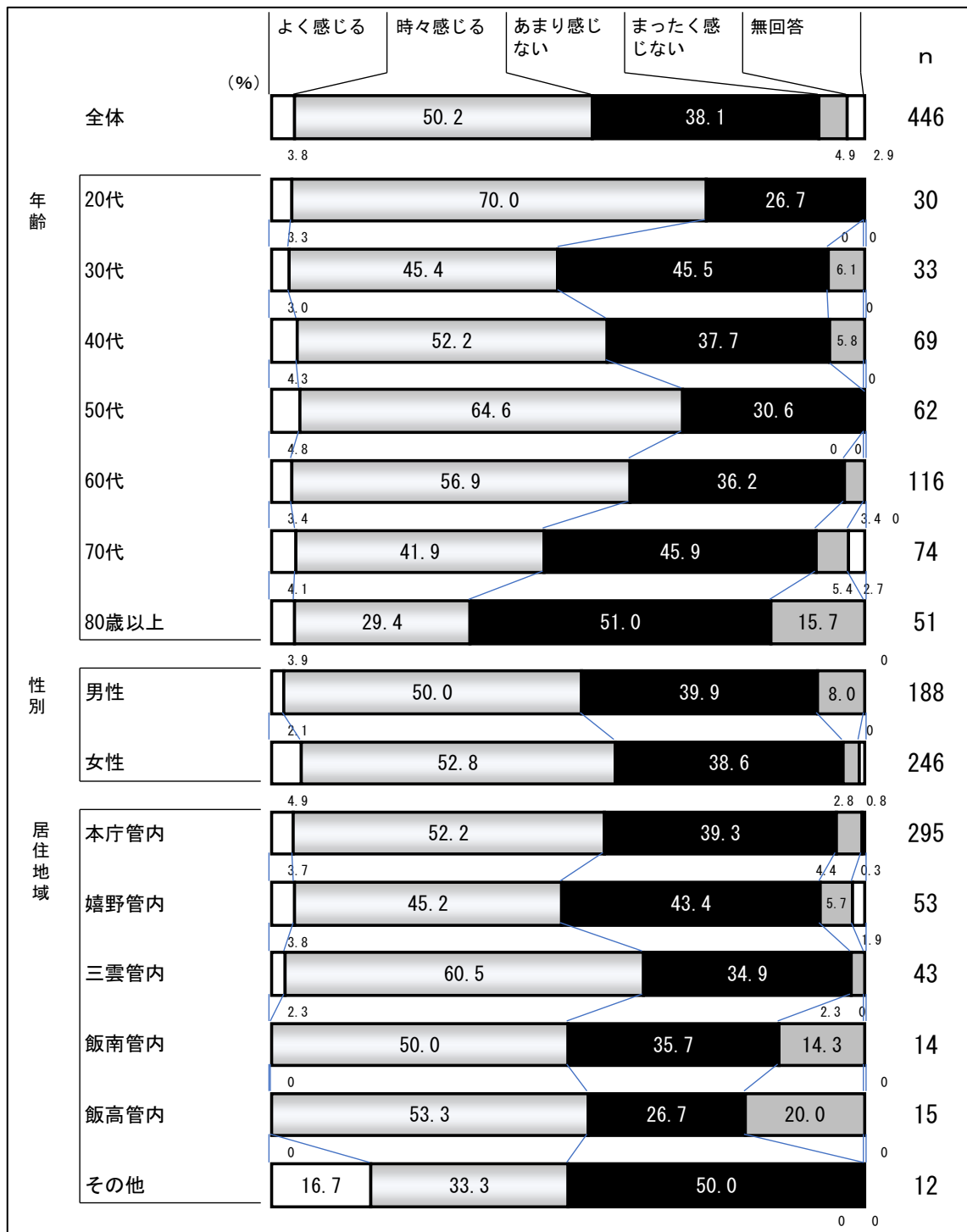


- “感じる”が5割強、“感じない”が4割強を占める。

日常生活で差別や偏みを感じることはあるかたずねたところ、「よく感じる」(3.8%)と「時々感じる」(50.2%)を合わせた“感じる”が54.0%、「あまり感じない」(38.1%)と「まったく感じない」(4.9%)を合わせた“感じない”が43.0%となっている。

年齢でみると、20代では“感じる”が7割強を占めるほか、50代では7割弱を占めている。80歳以上では“感じない”が7割弱を占めている。

図表 日常生活で差別や偏見を感じることはあるか



(3) 差別や偏見を感じる場面

※問 5-1 は、問 5 で「1. よく感じる」、「2. 時々感じる」に○をつけた方にうかがいます。
問 5-1 障がいのある人などへの差別や偏見を感じるのは、どのような時ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

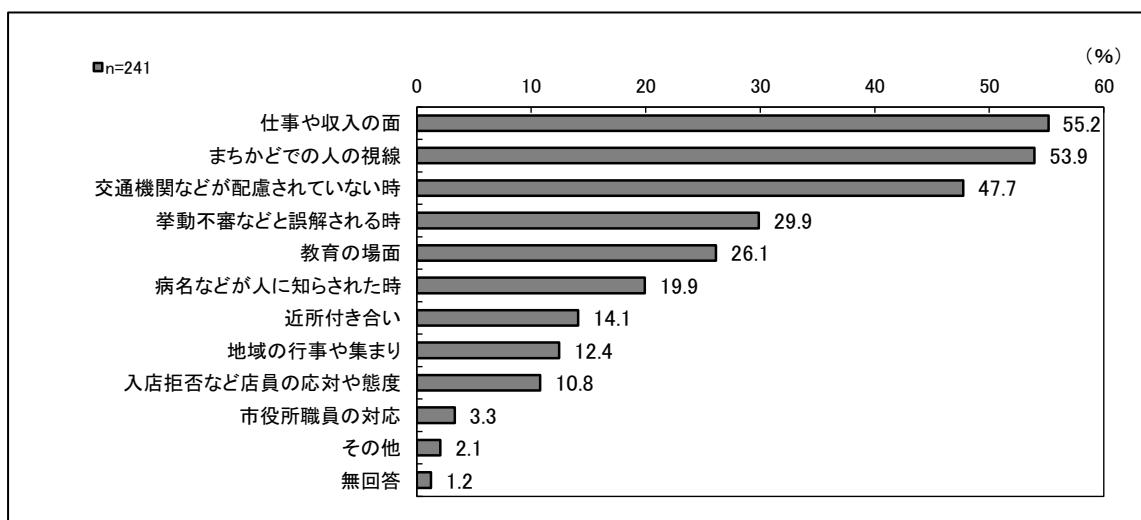
- 「仕事や収入の面」が第1位。「まちかどでの人の視線」、「交通機関などが配慮されていない時」などが続く。

差別や偏見を感じる場面についてたずねたところ、「仕事や収入の面」(55.2%)が最も多く、次いで「まちかどでの人の視線」(53.9%)、「交通機関などが配慮されていない時」(47.7%)、「挙動不審などと誤解される時」(29.9%)、「教育の場面」(26.1%)、「病名などが人に知らされた時」(19.9%)、「近所付き合い」(14.1%)、「地域の行事や集まり」(12.4%)、「入店拒否など店員の対応や態度」(10.8%)、「市役所職員の対応」(3.3%)となっている。

年齢でみると、20代から40代、60代では「まちかどでの人の視線」が第1位となっている。

性別でみると、男性では「仕事や収入の面」が第1位となっているのに対し、女性では「まちかどでの人の視線」が第1位となっている。

図表 差別や偏見を感じる場面（全体／複数回答）



図表 差別や偏見を感じる場面（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		仕事や収入の面 55.2	まちかどでの人の視線 53.9	交通機関などが配慮されていない時 47.7
年齢	20代	まちかどでの人の視線 72.7	交通機関などが配慮されていない時 54.5	仕事や収入の面／挙動不審などと誤解される時 45.5
	30代	まちかどでの人の視線 62.5	仕事や収入の面 50.0	交通機関などが配慮されていない時／挙動不審などと誤解される時 37.5
	40代	まちかどでの人の視線 56.4	仕事や収入の面 46.2	交通機関などが配慮されていない時 38.5
	50代	仕事や収入の面 65.1	交通機関などが配慮されていない時 60.5	まちかどでの人の視線 39.5
	60代	まちかどでの人の視線 62.9	仕事や収入の面 57.1	交通機関などが配慮されていない時 51.4
	70代	仕事や収入の面 64.7	交通機関などが配慮されていない時 44.1	まちかどでの人の視線 41.2
	80歳以上	仕事や収入の面／まちかどでの人の視線 41.2		地域の行事や集まり／交通機関などが配慮されていない時 29.4
性別	男性	仕事や収入の面 58.2	まちかどでの人の視線 50.0	交通機関などが配慮されていない時 44.9
	女性	まちかどでの人の視線 56.3	仕事や収入の面 52.8	交通機関などが配慮されていない時 49.3
居住地域	本庁管内	まちかどでの人の視線 54.5	仕事や収入の面 53.3	交通機関などが配慮されていない時 45.5
	嬉野管内	仕事や収入の面 65.4	まちかどでの人の視線 61.5	交通機関などが配慮されていない時／挙動不審などと誤解される時 53.8
	三雲管内	仕事や収入の面 63.0	交通機関などが配慮されていない時 59.3	まちかどでの人の視線 44.4
	飯南管内	まちかどでの人の視線 71.4	仕事や収入の面 42.9	病名などが人に知らされた時 28.6
	飯高管内	仕事や収入の面 62.5	交通機関などが配慮されていない時 50.0	教育の場面／まちかどでの人の視線 25.0
	その他	交通機関などが配慮されていない時 66.7	教育の場面／地域の行事や集まり／まちかどでの人の視線 50.0	

(4) 障害者差別解消法の認知度

問6 平成28年4月から障がいや疾病があることを理由とした差別の禁止や、必要な配慮の提供を求める（民間は努力義務）「障害者差別解消法」が施行されたことを知っていますか。（1つに○）

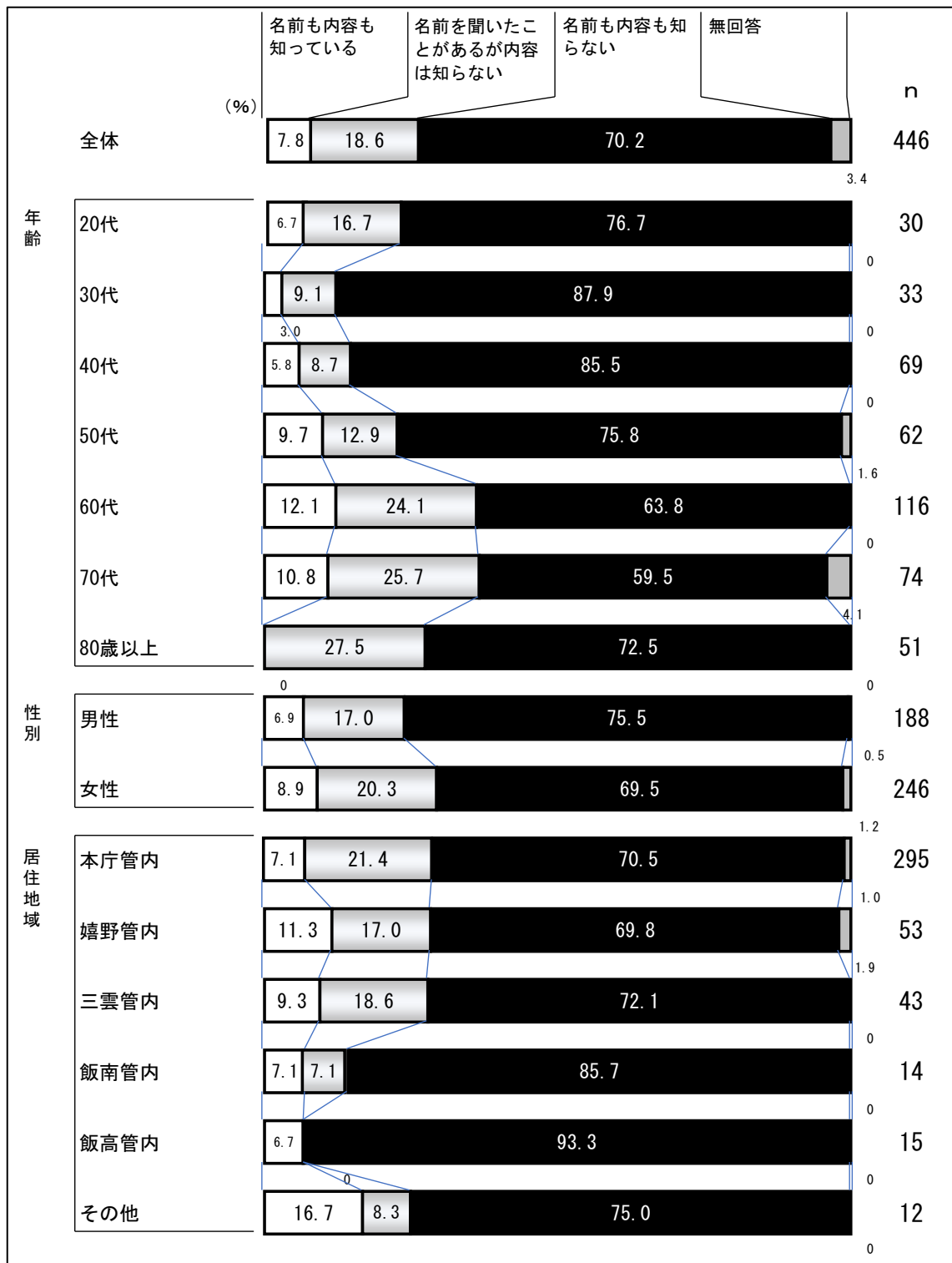


- 「名前も内容も知らない」が7割強を占める。

障害者差別解消法について知っているかたずねたところ、「名前も内容も知らない」が70.2%、「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が18.6%、「名前も内容も知っている」が7.8%となっている。

年齢でみると、30代から40代では「名前も内容も知らない」がともに9割弱を占めており、他の年齢層よりも高くなっている。

図表 障害者差別解消法の認知度



(5) 障がいのある人などに対する理解を深めるために必要なこと

問7 障がいのある人などに対する理解を深めるためには何が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

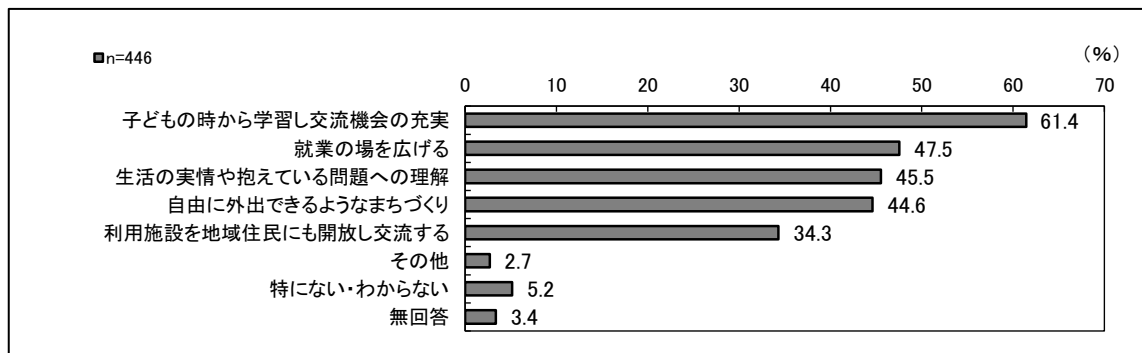
- 「子どもの時から学習し交流機会の充実」が第1位。「就業の場を広げる」、「生活の実情や抱えている問題への理解」、「自由に外出できるようなまちづくり」などが続く。

障がいのある人などに対する理解を深めるために必要なことについてたずねたところ、「子どもの時から学習し交流機会の充実」(61.4%)が最も多く、次いで「就業の場を広げる」(47.5%)、「生活の実情や抱えている問題への理解」(45.5%)、「自由に外出できるようなまちづくり」(44.6%)、「利用施設を地域住民にも開放し交流する」(34.3%)の順となっている。

年齢でみると、70代では「自由に外出できるようなまちづくり」が第1位となっている。

居住地域でみると、飯高管内では「利用施設を地域住民にも開放し交流する」が第1位となっている。

図表 障がいのある人などに対する理解を深めるために必要なこと（全体／複数回答）



図表 障がいのある人などに対する理解を深めるために必要なこと
(全体・属性別－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		子どもの時から学習し交流機会の充実 61.4	就業の場を広げる 47.5	生活の実情や抱えている問題への理解 45.5
年齢	20代	子どもの時から学習し交流機会の充実 63.3	生活の実情や抱えている問題への理解 53.3	就業の場を広げる 50.0
	30代	子どもの時から学習し交流機会の充実 72.7	生活の実情や抱えている問題への理解 54.5	就業の場を広げる 51.5
	40代	子どもの時から学習し交流機会の充実 68.1	就業の場を広げる 52.2	生活の実情や抱えている問題への理解 46.4
	50代	子どもの時から学習し交流機会の充実 72.6	就業の場を広げる／生活の実情や抱えている問題への理解 51.6	
	60代	子どもの時から学習し交流機会の充実 66.4	自由に外出できるようなまちづくり 51.7	就業の場を広げる 50.9
	70代	自由に外出できるようなまちづくり 52.7	子どもの時から学習し交流機会の充実 51.4	就業の場を広げる／利用施設を地域住民にも開放し交流する 43.2
	80歳以上	子どもの時から学習し交流機会の充実 47.1	生活の実情や抱えている問題への理解 43.1	就業の場を広げる／利用施設を地域住民にも開放し交流する 41.2
性別	男性	子どもの時から学習し交流機会の充実 55.9	就業の場を広げる 46.8	生活の実情や抱えている問題への理解 45.7
	女性	子どもの時から学習し交流機会の充実 68.3	就業の場を広げる 50.0	自由に外出できるようなまちづくり 49.6
居住地域	本庁管内	子どもの時から学習し交流機会の充実 66.4	生活の実情や抱えている問題への理解 47.8	就業の場を広げる 47.5
	嬉野管内	子どもの時から学習し交流機会の充実 58.5	自由に外出できるようなまちづくり 56.6	就業の場を広げる／生活の実情や抱えている問題への理解 52.8
	三雲管内	子どもの時から学習し交流機会の充実／就業の場を広げる 55.8	生活の実情や抱えている問題への理解 46.5	
	飯南管内	子どもの時から学習し交流機会の充実 64.3	利用施設を地域住民にも開放し交流する 50.0	就業の場を広げる 35.7
	飯高管内	利用施設を地域住民にも開放し交流する 60.0	子どもの時から学習し交流機会の充実／自由に外出できるようなまちづくり／就業の場を広げる 53.3	
	その他	就業の場を広げる 50.0	自由に外出できるようなまちづくり／利用施設を地域住民にも開放し交流する 41.7	

2 障がいのある人の地域生活について

(1) 障がいのある人などが抱える問題についての関心

問8 障がいのある人などが抱えている問題について、関心がありますか。(1つに○)



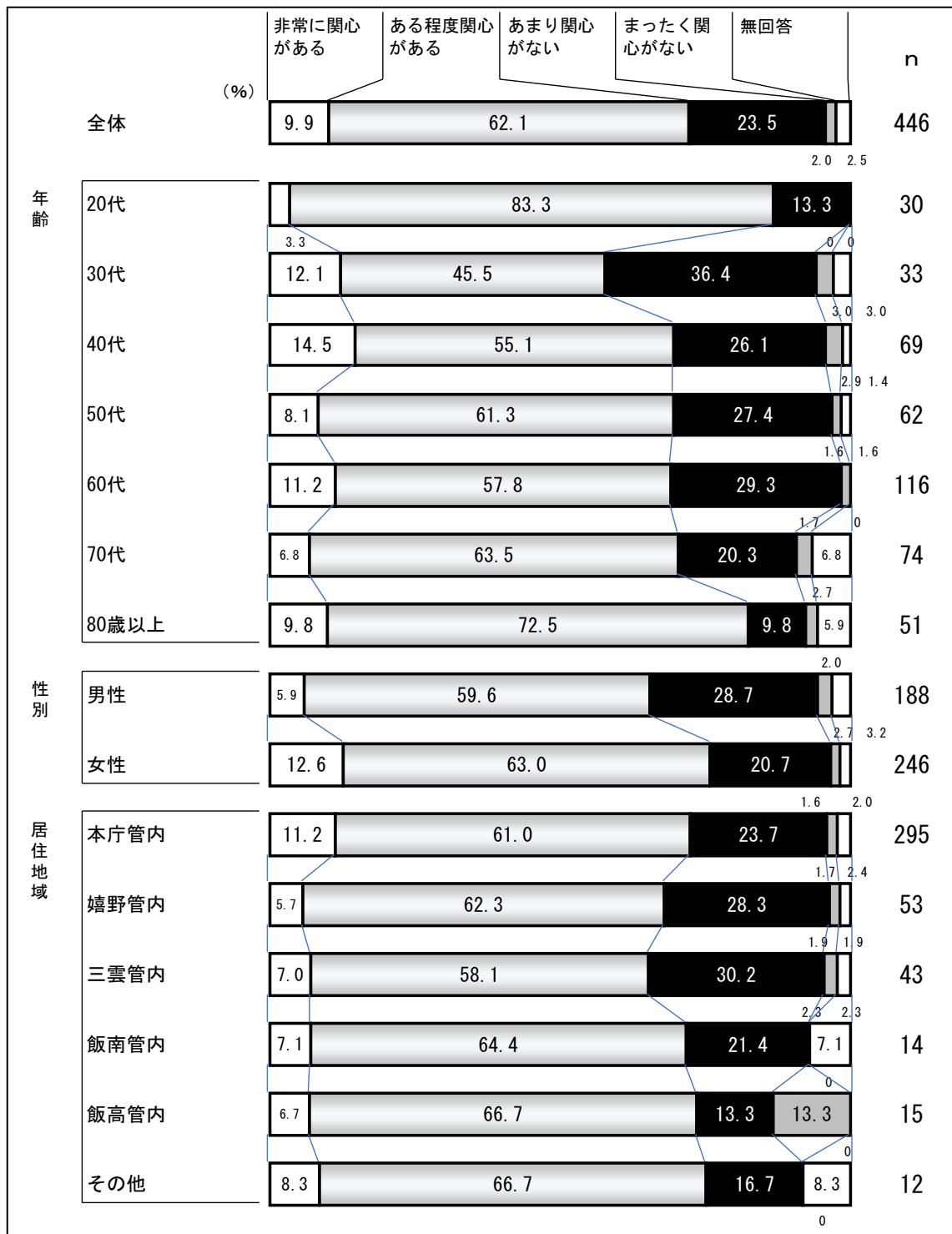
- “関心がある”が7割強、“関心がない”が3割弱を占める。

障がいのある人などが抱える問題についての関心があるかたずねたところ、「非常に関心がある」(9.9%)と「ある程度関心がある」(62.1%)を合わせた“関心がある”が72.0%、「あまり関心がない」(23.5%)と「まったく関心がない」(2.0%)を合わせた“25.5%”となっている。

年齢でみると、20代では“関心がある”が86.6%、80歳以上では82.3%となっており、他の年齢層よりも高くなっている。

性別でみると、男性よりも女性の“関心がある”の割合が高くなっている。

図表 障がいのある人などが抱える問題についての関心



(2) 関心を持つようになった理由

※問 8-1 は、問 8 で「1. 非常に関心がある」、「2. ある程度関心がある」に○をつけた方
 にかがいます。

問 8-1 関心を持つようになった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



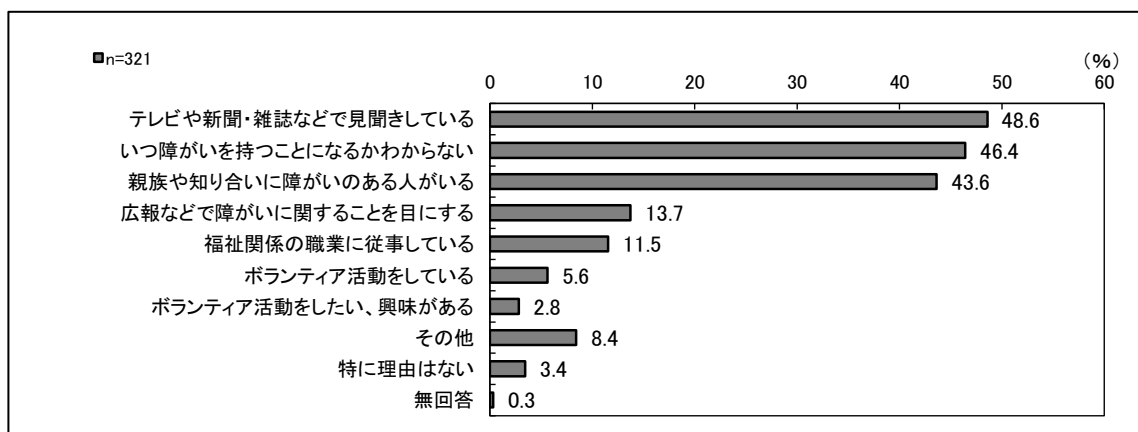
- 「テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている」、「いつ障がいを持つことになるかわからないから」、「親族や知り合いに障がいのある人がいる」が上位を占める。

関心を持つようになった理由についてたずねたところ、「テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている」(48.6%) が最も多く、次いで「いつ障がいを持つことになるかわからない」(46.4%)、「親族や知り合いに障がいのある人がいる」(43.6%)、「広報などで障がいに関することを目にする」(13.7%)、「福祉関係の職業に従事している」(11.5%)、「ボランティア活動をしている」(5.6%)、「ボランティア活動をしたい、興味がある」(2.8%) の順となっている。

年齢でみると、20 代と 50 代では「親族や知り合いに障がいのある人がいる」、30 代、40 代、60 代では「いつ障がいを持つことになるかわからない」が第 1 位となっている。

性別でみると、男性では「テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている」が第 1 位となっているのに対し、女性では「親族や知り合いに障がいのある人がいる」が第 1 位となっている。

図表 関心を持つようになった理由（全体／複数回答）



図表 関心を持つようになった理由（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 48.6	いつ障がいを持つことになるかわからない 46.4	親族や知り合いに障がいのある人がいる 43.6
年齢	20代	親族や知り合いに障がいのある人がいる 57.7	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 46.2	いつ障がいを持つことになるかわからない 34.6
	30代	いつ障がいを持つことになるかわからない 52.6	親族や知り合いに障がいのある人がいる／福祉関係の職業に従事している／テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている	31.6
	40代	いつ障がいを持つことになるかわからない 50.0	親族や知り合いに障がいのある人がいる 35.4	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 33.3
	50代	親族や知り合いに障がいのある人がいる 48.8	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 41.9	いつ障がいを持つことになるかわからない 34.9
	60代	いつ障がいを持つことになるかわからない 55.0	親族や知り合いに障がいのある人がいる／テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている	50.0
	70代	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 57.7	いつ障がいを持つことになるかわからない 48.1	親族や知り合いに障がいのある人がいる 34.6
	80歳以上	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 71.4	いつ障がいを持つことになるかわからない 47.6	親族や知り合いに障がいのある人がいる 42.9
性別	男性	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 56.1	いつ障がいを持つことになるかわからない 50.4	親族や知り合いに障がいのある人がいる 33.3
	女性	親族や知り合いに障がいのある人がいる 50.5	いつ障がいを持つことになるかわからない 45.7	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 44.6
居住地域	本庁管内	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 49.3	いつ障がいを持つことになるかわからない 45.1	親族や知り合いに障がいのある人がいる 44.1
	嬉野管内	いつ障がいを持つことになるかわからない 52.8	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 50.0	親族や知り合いに障がいのある人がいる 47.2
	三雲管内	いつ障がいを持つことになるかわからない 71.4	親族や知り合いに障がいのある人がいる 35.7	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 28.6
	飯南管内	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 80.0	親族や知り合いに障がいのある人がいる 60.0	いつ障がいを持つことになるかわからない 50.0
	飯高管内	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 72.7	いつ障がいを持つことになるかわからない 45.5	親族や知り合いに障がいのある人がいる 36.4
	その他	テレビや新聞・雑誌などで見聞きしている 44.4	親族や知り合いに障がいのある人がいる 22.2	ボランティア活動をしている／いつ障がいを持つことになるかわからない 11.1

3 障がいのある人などにやさしいまちづくりについて

(1) バリアフリーが進んでいないと感じることはあるか

問9 日常生活の中で、バリアフリーが進んでいないと感じることはありますか。(1つに○)



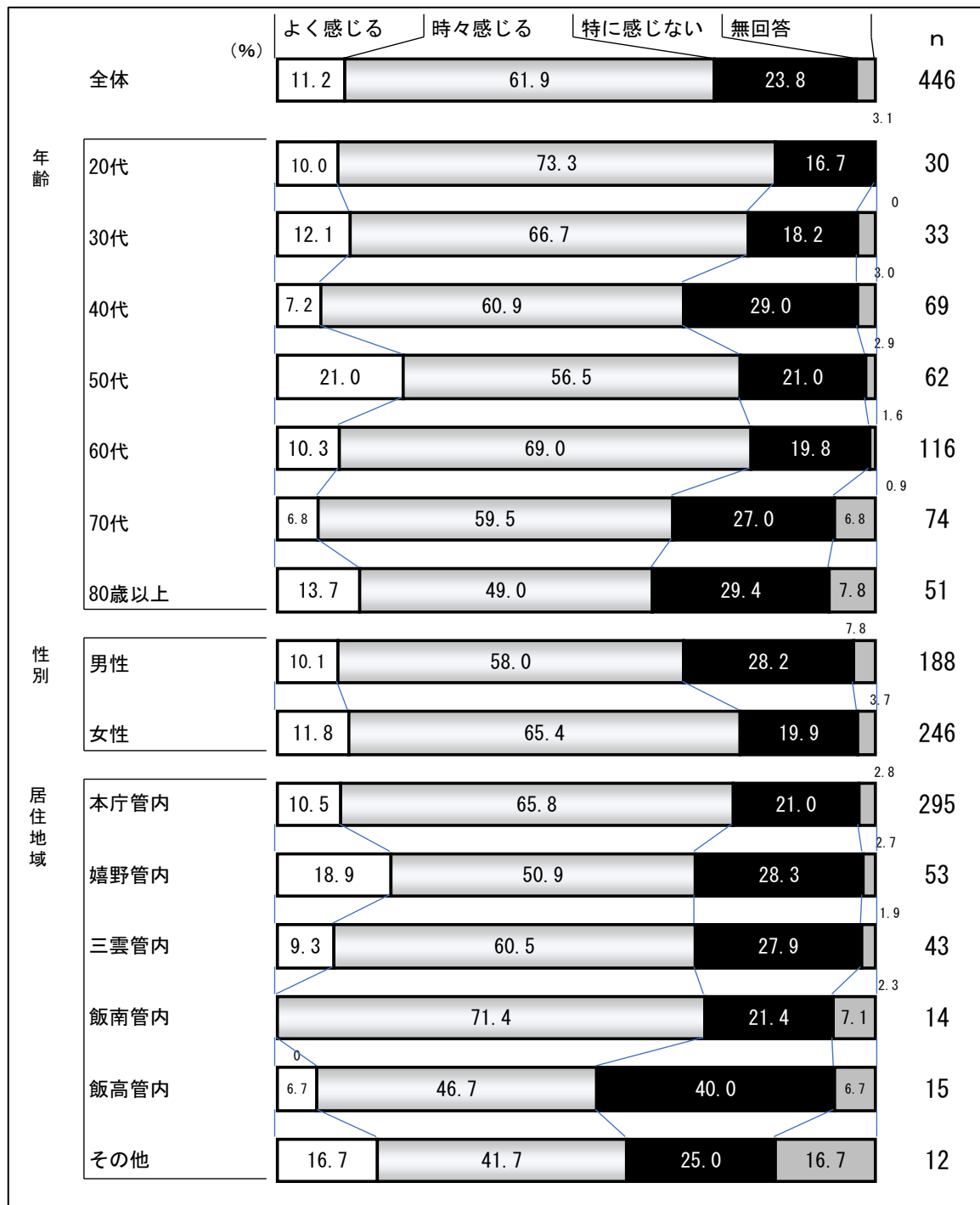
- 「時々感じる」が6割強、「よく感じる」が1割強を占める。「特に感じない」は2割強を占める。

バリアフリーが進んでいないと感じることはあるかたずねたところ、「時々感じる」が61.9%、「特に感じない」が23.8%、「よく感じる」が11.2%となっている。

年齢でみると、50代では「よく感じる」が2割強を占めている。40代と70代以上では、「特に感じない」がいずれも3割弱を占めている。

性別でみると、男性では「特に感じない」が3割弱を占めているのに対し、女性では2割弱となっている。

図表 バリアフリーが進んでいないと感じることはあるか



(2) バリアフリーが進んでいないと感じるところ

※問 9-1 は、問 9 で「1. よく感じる」、「2. 時々感じる」に○をつけた方にうかがいます。
問 9-1 どんなところで感じますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

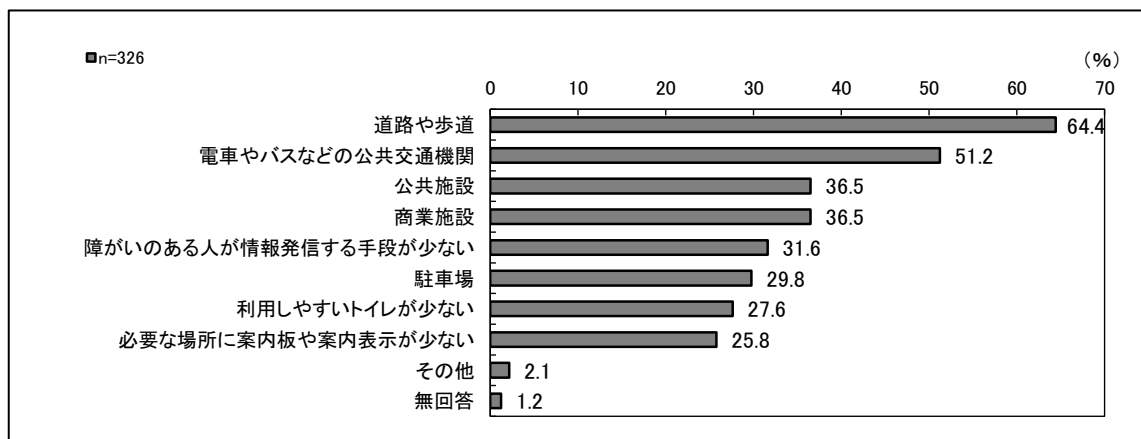


- 「道路や歩道」が第1位。「電車やバスなどの公共交通機関」、「公共施設」・「商業施設」などが続く。

バリアフリーが進んでいないと感じるところについては、「道路や歩道」(64.4%)が最も多く、次いで「電車やバスなどの公共交通機関」(51.2%)、「公共施設」・「商業施設」(同率 36.5%)、「障がいのある人が情報発信する手段が少ない」(31.6%)、「駐車場」(29.8%)、「利用しやすいトイレが少ない」(27.6%)、「必要な場所に案内板や案内表示が少ない」(25.8%)の順となっている。

年齢でみると、40代と80歳以上では「電車やバスなどの公共交通機関」が第1位となっている。

図表 バリアフリーが進んでいないと感じるところ（全体／複数回答）



図表 バリアフリーが進んでいないと感じるところ（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		道路や歩道 64.4	電車やバスなどの公共交通機関 51.2	公共施設／商業施設 36.5
年齢	20代	道路や歩道 64.0	電車やバスなどの公共交通機関 48.0	公共施設／利用しやすいトイレが少ない 32.0
	30代	道路や歩道 53.8	電車やバスなどの公共交通機関／駐車場／利用しやすいトイレが少ない 38.5	
	40代	電車やバスなどの公共交通機関 55.3	道路や歩道 51.1	障がいのある人が情報発信する手段が少ない 42.6
	50代	道路や歩道 68.8	電車やバスなどの公共交通機関 58.3	商業施設 41.7
	60代	道路や歩道 76.1	電車やバスなどの公共交通機関 52.2	商業施設 42.4
	70代	道路や歩道 67.3	電車やバスなどの公共交通機関 42.9	公共施設 40.8
	80歳以上	電車やバスなどの公共交通機関 56.3	道路や歩道 53.1	公共施設 37.5
性別	男性	道路や歩道 59.4	電車やバスなどの公共交通機関 46.1	商業施設 37.5
	女性	道路や歩道 68.4	電車やバスなどの公共交通機関 54.2	公共施設 40.0
居住地域	本庁管内	道路や歩道 64.4	電車やバスなどの公共交通機関 55.6	商業施設 35.6
	嬉野管内	道路や歩道 67.6	商業施設 48.6	公共施設 43.2
	三雲管内	道路や歩道 63.3	電車やバスなどの公共交通機関 50.0	駐車場 40.0
	飯南管内	道路や歩道 70.0	公共施設 30.0	電車やバスなどの公共交通機関／駐車場／商業施設／障がいのある人が情報発信する手段が少ない 20.0
	飯高管内	電車やバスなどの公共交通機関／道路や歩道 62.5		駐車場／公共施設／商業施設／障がいのある人が情報発信する手段が少ない 37.5
	その他	道路や歩道 57.1	公共施設／利用しやすいトイレが少ない／障がいのある人が情報発信する手段が少ない 42.9	

(3) 障がいのある人などが地域の活動に参加しやすくするために必要なこと

問 10 障がいのある人などが、地域の行事や活動により参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



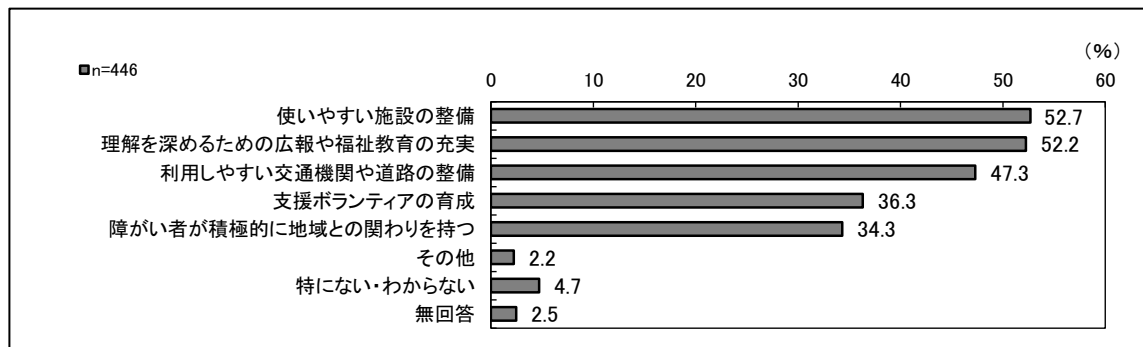
- 「使いやすい施設の整備」が第1位。「理解を深めるための広報や福祉教育の充実」、「利用しやすい交通機関や道路の整備」などが続く。

障がいのある人などが地域の活動に参加しやすくするために必要なことについてたずねたところ、「使いやすい施設の整備」(52.7%)が最も多く、次いで「理解を深めるための広報や福祉教育の充実」(52.2%)、「利用しやすい交通機関や道路の整備」(47.3%)、「支援ボランティアの育成」(36.3%)、「障がい者が積極的に地域との関わりを持つ」(34.3%)の順となっている。

年齢でみると、20代、30代、80歳以上では、「使いやすい施設の整備」が第1位となっているのに対し、40代、60代、70代では「理解を深めるための広報や福祉教育の充実」、50代では「利用しやすい交通機関や道路の整備」が第1位となっている。

居住地域でみると、本庁管内では「理解を深めるための広報や福祉教育の充実」、飯高管内では「利用しやすい交通機関や道路の整備」が第1位となっている。

図表 障がいのある人などが地域の活動に参加しやすくするために必要なこと
(全体／複数回答)



図表 障がいのある人などが地域の活動に参加しやすくするために必要なこと

(全体・属性別－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		使いやすい施設の整備 52.7	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 52.2	利用しやすい交通機関や 道路の整備 47.3
年齢	20代	使いやすい施設の整備 63.3	利用しやすい交通機関や 道路の整備 56.7	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 46.7
	30代	使いやすい施設の整備 66.7	利用しやすい交通機関や 道路の整備 54.5	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 45.5
	40代	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 58.0	利用しやすい交通機関や 道路の整備 43.5	使いやすい施設の整備 42.0
	50代	利用しやすい交通機関や 道路の整備 64.5	使いやすい施設の整備 59.7	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 43.5
	60代	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 53.4	使いやすい施設の整備 52.6	利用しやすい交通機関や 道路の整備 46.6
	70代	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 55.4	使いやすい施設の整備 48.6	障がい者が積極的に地域 との関わりを持つ 45.9
	80歳以上	使いやすい施設の整備 51.0	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 49.0	利用しやすい交通機関や 道路の整備 43.1
性別	男性	使いやすい施設の整備／理解を深めるための広報や 福祉教育の充実 50.0		利用しやすい交通機関や 道路の整備 46.3
	女性	使いやすい施設の整備 54.9	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 52.4	利用しやすい交通機関や 道路の整備 48.4
居住地域	本庁管内	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 52.9	使いやすい施設の整備 51.9	利用しやすい交通機関や 道路の整備 47.5
	嬉野管内	使いやすい施設の整備 56.6	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 54.7	利用しやすい交通機関や 道路の整備 49.1
	三雲管内	使いやすい施設の整備 55.8	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 44.2	利用しやすい交通機関や 道路の整備 37.2
	飯南管内	使いやすい施設の整備 57.1	利用しやすい交通機関や 道路の整備 50.0	支援ボランティアの育成 42.9
	飯高管内	利用しやすい交通機関や 道路の整備 73.3	使いやすい施設の整備 60.0	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 46.7
	その他	理解を深めるための広報 や福祉教育の充実 58.3	利用しやすい交通機関や道路の整備／障がい者が積 極的に地域との関わりを持つ 41.7	

4 災害対策について

(1) 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み

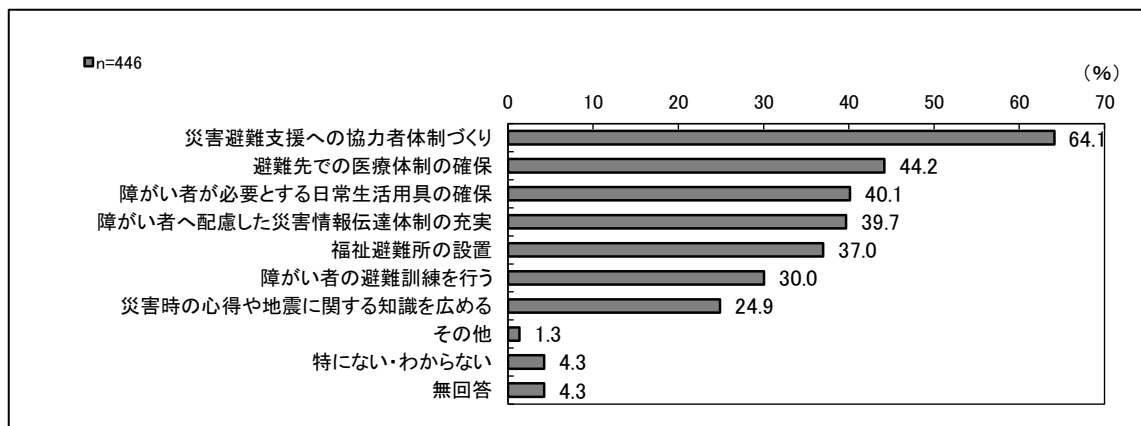
問 11 障がいのある人などのために、災害対策として、市はどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「災害避難支援への協力者体制づくり」が第1位。「避難先での医療体制の確保」、「障がい者が必要とする日常生活用具の確保」などが続く。

災害に備えて市が力を入れるべき取り組みについてたずねたところ、「災害避難支援への協力者体制づくり」(64.1%)が最も多く、次いで「避難先での医療体制の確保」(44.2%)、「障がい者が必要とする日常生活用具の確保」(40.1%)、「障がい者へ配慮した災害情報伝達体制の充実」(39.7%)、「福祉避難所の設置」(37.0%)、「障がい者の避難訓練を行う」(30.0%)、「災害時の心得や地震に関する知識を広める」(24.9%)の順となっている。

いずれの属性でも「災害避難支援への協力者体制づくり」が第1位となっている。

図表 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み（全体／複数回答）



図表 災害に備えて市が力を入れるべき取り組み

(全体・属性別－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		災害避難支援への協力者 体制づくり 64.1	避難先での医療体制の確 保 44.2	障がい者が必要とする日 常生活用具の確保 40.1
年 齢	20代	災害避難支援への協力者 体制づくり 66.7	避難先での医療体制の確 保 56.7	障がい者へ配慮した災害 情報伝達体制の充実 43.3
	30代	災害避難支援への協力者 体制づくり 54.5	福祉避難所の設置／障がい者が必要とする日常生活 用具の確保 45.5	
	40代	災害避難支援への協力者 体制づくり 60.9	避難先での医療体制の確 保 44.9	障がい者が必要とする日 常生活用具の確保 37.7
	50代	災害避難支援への協力者 体制づくり 62.9	障がい者へ配慮した災害 情報伝達体制の充実 51.6	福祉避難所の設置／障 がい者が必要とする日常生 活用具の確保 40.3
	60代	災害避難支援への協力者 体制づくり 75.9	障がい者へ配慮した災害 情報伝達体制の充実 50.9	福祉避難所の設置 46.6
	70代	災害避難支援への協力者 体制づくり 59.5	避難先での医療体制の確保／障がい者が必要とする 日常生活用具の確保 41.9	
	80歳以上	災害避難支援への協力者 体制づくり 52.9	避難先での医療体制の確 保 35.3	障がい者の避難訓練を行 う 33.3
性 別	男性	災害避難支援への協力者 体制づくり 59.6	避難先での医療体制の確 保 38.3	障がい者へ配慮した災害 情報伝達体制の充実 37.8
	女性	災害避難支援への協力者 体制づくり 67.1	避難先での医療体制の確 保 47.6	障がい者が必要とする日 常生活用具の確保 43.5
居 住 地 域	本庁管内	災害避難支援への協力者 体制づくり 66.4	避難先での医療体制の確 保 43.1	障がい者が必要とする日 常生活用具の確保 42.7
	嬉野管内	災害避難支援への協力者 体制づくり 64.2	避難先での医療体制の確 保 47.2	障がい者が必要とする日 常生活用具の確保 45.3
	三雲管内	災害避難支援への協力者 体制づくり 51.2	避難先での医療体制の確 保 48.8	福祉避難所の設置 37.2
	飯南管内	災害避難支援への協力者 体制づくり 64.3	障がい者へ配慮した災害 情報伝達体制の充実 35.7	障がい者の避難訓練を行 う／避難先での医療体制 の確保 28.6
	飯高管内	災害避難支援への協力者体制づくり／福祉避難所の設置／避難先での医療体制 の確保 53.3		
	その他	災害避難支援への協力者 体制づくり 58.3	災害時の心得や地震に関する知識を広める／障がい 者が必要とする日常生活用具の確保 33.3	

5 ボランティア活動などについて

(1) ボランティア活動の経験があるか

問 12 ボランティア活動の経験はありますか。(1 つに○)

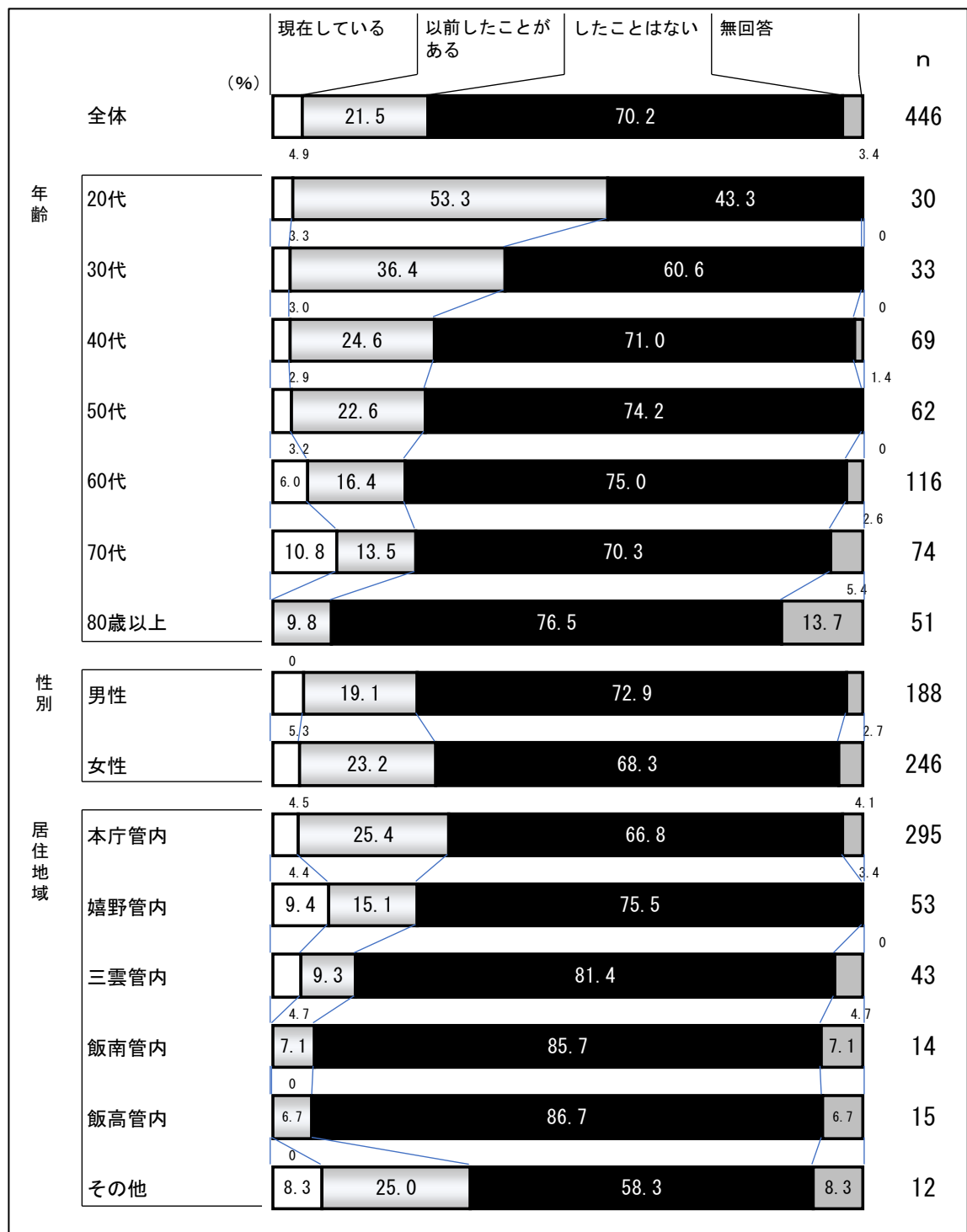


- 「したことはない」が7割強、「以前したことがある」が2割強を占める。「現在している」は1割に満たない。

ボランティア活動の経験があるかたずねたところ、「したことはない」が70.2%、「以前したことがある」が21.5%、「現在している」が4.9%となっている。

年齢でみると、20代では「以前したことがある」が5割強を占めている。70代では「現在している」が1割強を占めている。

図表 ボランティア活動の経験があるか



(2) 障がいのある人などに対してできる支援

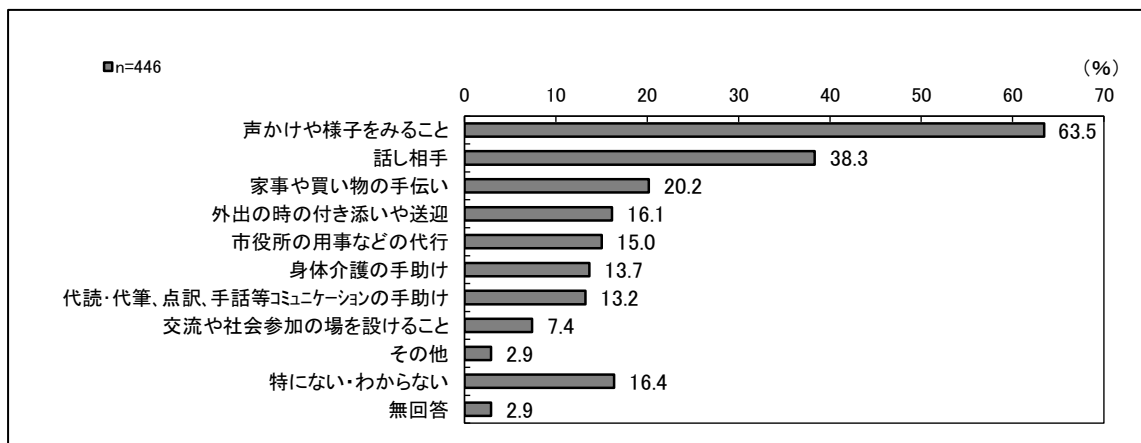
問 13 あなたは、障がいのある人などに対して、どのような支援ができますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「声かけや様子を見ること」が他を大きく引き離して第1位。

障がいのある人などに対してできる支援についてたずねたところ、「声かけや様子を見ること」(63.5%)が最も多く、次いで「話し相手」(38.3%)、「家事や買い物の手伝い」(20.2%)、「外出の時の付き添いや送迎」(16.1%)、「市役所の用事などの代行」(15.0%)、「身体介護の手助け」(13.7%)、「代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け」(13.2%)、「交流や社会参加の場を設けること」(7.4%)となっている。なお、「特にない・わからない」は16.4%となっている。

年齢でみると、80歳以上では、「話し相手」が第1位となっている。

図表 障がいのある人などに対してできる支援（全体／複数回答）



図表 障がいのある人などに対してできる支援（全体・属性別－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		声かけや様子を見ること 63.5	話し相手 38.3	家事や買い物の手伝い 20.2
年齢	20代	声かけや様子を見ること 66.7	話し相手 40.0	代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け 30.0
	30代	声かけや様子を見ること 69.7	話し相手 48.5	家事や買い物の手伝い 33.3
	40代	声かけや様子を見ること 62.3	話し相手 30.4	代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け 17.4
	50代	声かけや様子を見ること 72.6	話し相手 32.3	市役所の用事などの代行 17.7
	60代	声かけや様子を見ること 63.8	話し相手 38.8	家事や買い物の手伝い 20.7
	70代	声かけや様子を見ること 68.9	話し相手 39.2	家事や買い物の手伝い 27.0
	80歳以上	話し相手 47.1	声かけや様子を見ること 39.2	家事や買い物の手伝い 11.8
性別	男性	声かけや様子を見ること 56.4	話し相手 31.4	身体介護の手助け 18.1
	女性	声かけや様子を見ること 68.7	話し相手 43.5	家事や買い物の手伝い 24.0
居住地域	本庁管内	声かけや様子を見ること 66.4	話し相手 41.0	家事や買い物の手伝い 23.7
	嬉野管内	声かけや様子を見ること 67.9	話し相手 37.7	代読・代筆、点訳、手話等コミュニケーションの手助け／身体介護の手助け 17.0
	三雲管内	声かけや様子を見ること 55.8	話し相手 32.6	家事や買い物の手伝い／身体介護の手助け 16.3
	飯南管内	声かけや様子を見ること 64.3	話し相手 21.4	交流や社会参加の場を設けること 14.3
	飯高管内	声かけや様子を見ること／話し相手 33.3		外出の時の付き添いや送迎／市役所の用事などの代行 20.0
	その他	声かけや様子を見ること 33.3	話し相手／身体介護の手助け 25.0	

6 市の取り組みについて

(1) 市が取り組むべき施策

問 14 障がいのある人もない人も、ともに住みやすいまちをつくるための施策について、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



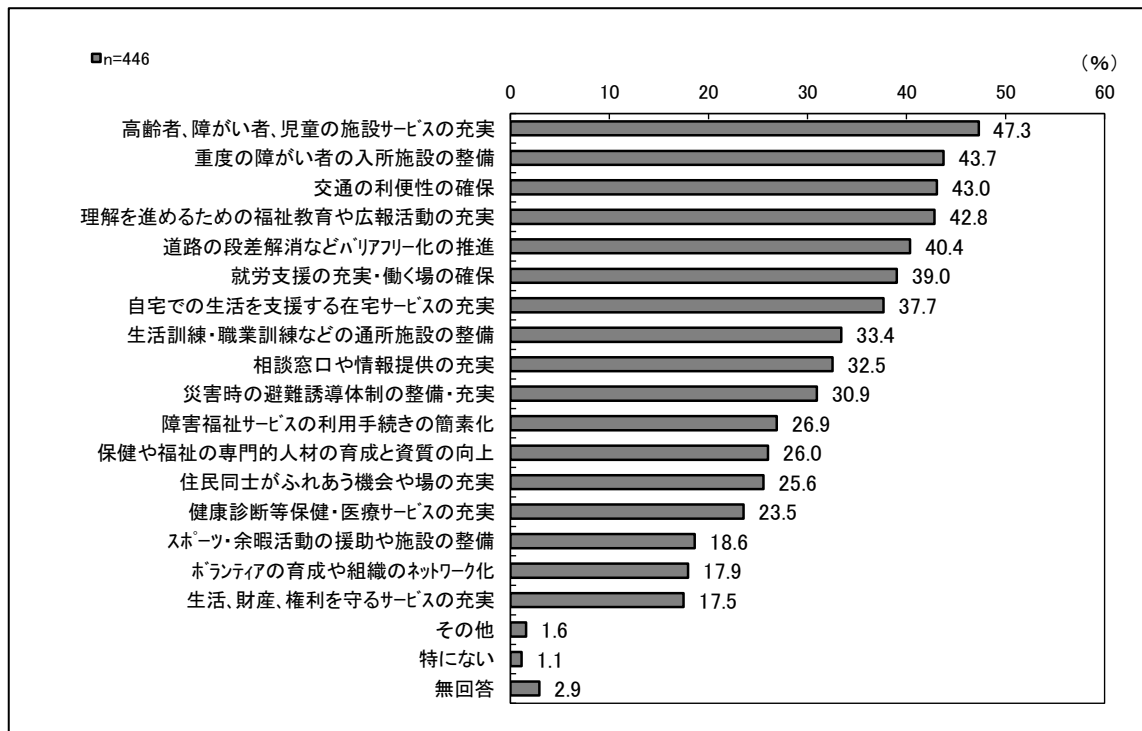
- 「高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実」が第1位。「重度の障がい者の入所施設の整備」、「交通の利便性の確保」などが続く。

市が取り組むべき施策についてたずねたところ、「高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実」(47.3%)が最も多く、次いで「重度の障がい者の入所施設の整備」(43.7%)、「交通の利便性の確保」(43.0%)、「理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実」(42.8%)、「道路の段差解消などバリアフリー化の推進」(40.4%)、「就労支援の充実・働く場の確保」(39.0%)、「自宅での生活を支援する在宅サービスの充実」(37.7%)、「生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備」(33.4%)、「相談窓口や情報提供の充実」(32.5%)、「災害時の避難誘導體制の整備・充実」(30.9%)、「障害福祉サービスの利用手続きの簡素化」(26.9%)、「保健や福祉の専門的人材の育成と資質の向上」(26.0%)、「住民同士がふれあう機会や場の充実」(25.6%)、「健康診断等保健・医療サービスの充実」(23.5%)、「スポーツ・余暇活動の援助や施設の整備」(18.6%)、「ボランティアの育成や組織のネットワーク化」(17.9%)、「生活、財産、権利を守るサービスの充実」(17.5%)などとなっている。

年齢でみると、50代では「交通の利便性の確保」、60代、80歳以上では「重度の障がい者の入所施設の整備」が第1位となっている。30代では「道路の段差解消などバリアフリー化の推進」と「高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実」が同率で第1位となっている。

居住地域でみると、飯南管内では「理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実」、飯高管内では「生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備」が第1位となっている。

図表 市が取り組むべき施策（全体／複数回答）



図表 市が取り組むべき施策（全体・属性別—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 47.3	重度の障がい者の入所施設の整備 43.7	交通の利便性の確保 43.0
年齢	20代	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 70.0	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 56.7	道路の段差解消などバリアフリー化の推進／交通の利便性の確保 46.7
	30代	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実／道路の段差解消などバリアフリー化の推進 54.5		就労支援の充実・働く場の確保 48.5
	40代	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 43.5		就労支援の充実・働く場の確保／交通の利便性の確保 40.6
	50代	交通の利便性の確保 58.1	道路の段差解消などバリアフリー化の推進 48.4	重度の障がい者の入所施設の整備 46.8
	60代	重度の障がい者の入所施設の整備 52.6	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 50.0	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実 46.6
	70代	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 45.9	重度の障がい者の入所施設の整備 44.6	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実／住民同士がふれあう機会や場の充実 39.2
	80歳以上	重度の障がい者の入所施設の整備 47.1	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 43.1	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実／高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実／交通の利便性の確保 39.2
性別	男性	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 43.6		交通の利便性の確保 42.0
	女性	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 50.8	重度の障がい者の入所施設の整備／就労支援の充実・働く場の確保 45.1	
居住地域	本庁管内	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 49.2	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／重度の障がい者の入所施設の整備／交通の利便性の確保 43.4	
	嬉野管内	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実／重度の障がい者の入所施設の整備 50.9		交通の利便性の確保 47.2
	三雲管内	高齢者、障がい者、児童の施設サービスの充実 48.8	重度の障がい者の入所施設の整備 44.2	交通の利便性の確保 41.9
	飯南管内	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 50.0	重度の障がい者の入所施設の整備／道路の段差解消などバリアフリー化の推進 42.9	
	飯高管内	生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備 60.0	交通の利便性の確保 53.3	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実／就労支援の充実・働く場の確保 46.7
	その他	理解を進めるための福祉教育や広報活動の充実 50.0	交通の利便性の確保 41.7	道路の段差解消などバリアフリー化の推進 33.3